

## 平成27年第5回牧之原市議会定例会 行政報告

平成27年第5回牧之原市議会定例会の開会に当たり、当面する市政の重要な課題に関し、所信の一端を申し上げます。

まず、市民の生命財産を守るため、最優先に取り組んでおります津波防災事業の進捗についてであります。

津波避難施設として波津地内に整備を進めてまいりました津波避難ビルが、商工会館、防災研修センターとして完成いたしました。防災拠点、商店街振興拠点として様々な活用を期待しているところであります。

津波避難施設整備につきましては、12基のうち4基が完成し、33%の進捗率となっております。

現在、相良福岡地区の金比羅山防災公園、大江地区防災公園の2箇所の工事と、榛原地区Gブロック及びEブロックの津波避難タワー整備の工事について、早期完成を目指し進めております。

残り4基の津波避難タワーにつきましても、用地取得などの工事实施に向けた準備を進めており、一日も早い完成を目指し努力してまいります。

津波避難地、避難路の整備につきましては、片浜、相良、地頭方の3地区において20箇所の整備を平成30年度までに完了する予定で進めております。昨日、市議会議員の皆様にも安全祈願祭にご出席いただきました片浜6号、地頭方3号を皮切りといたしまして、他の事業箇所につきましても地元の皆様との合意形成を図りながら順次工事を進めてまいります。

防潮堤整備につきましては、沿岸15キロメートルの各海岸管理者によるレベル1防潮堤の早期整備に向け取り組んでおります。今年度は、県管理による整備区間内の地頭方地区東沢川北側から本格的な工事に着手することとなりましたので、市といたしましても早期完成に向け支援してまいります。

市の管理となります地頭方漁港海岸約1.1キロメートルにつきましては、本年度から工事实施に向けた詳細設計を進めており、今後地元の皆様に説明を行い来年度からの工事着手を予定しております。

今後も県の海岸防潮堤整備と歩調を合わせ、早期完成を目指してまいります。

また、今週日曜日に予定しております地域防災訓練では、市民の皆様は今一度防災意識を高めていただくとともに、消防・自衛隊などとの連携強化を図るため、市民参

加型の展示訓練を実施いたします。

災害時を想定し、自衛隊などの救援部隊がどのような活動を行うのか見ていただくことで、自助や共助の必要性について考えていただく気づきの場としてまいります。

次に、第2次総合計画における重点プロジェクトの進捗についてであります。

#### < 公共施設最適化プロジェクト >

まず公共施設最適化プロジェクトについてであります。

現在、施設分類ごとの方向性を明確にするため、基本計画の策定を進めております。策定に当たりましては、自治基本条例推進会議に諮問し、答申をいただくこととなっております。この答申に必要となる多様な市民の意見を確認するため、合計5回の対話の場を設けました。自治基本条例推進会議ではこれらを踏まえ答申を作成することとしており、現在第4回目までが終了したところであります。

過日、この第4回目の対話の場の内容について、「相良庁舎、榛原へ統合 牧之原市方針」との記事が新聞報道されました。

この回では、第3回目までの意見をもとに行政が把握する情報などを付け加えた案を叩き台として提供いたしました。この資料の内容が決定事項のような誤解を与えてしまうものであります。

今後は、今回の反省を踏まえ、資料の作成や取扱いなどに十分配慮するとともに、適切な情報提供をまいりますとともに、自治基本条例推進会議の答申を踏まえ、更に議論を重ねてまいります。

#### < 宝子ども育成プロジェクト >

宝子ども育成プロジェクトにつきましては、今年度は、子育て支援連携システム導入に向けシステム運用会議を設置し、システムの運用方法や活用のための環境整備を検討するとともに、ニーズ把握のためのワークショップを開催してまいりました。

本システムは、妊婦から中学生のお子様を持つ保護者を主な対象としており、子どもを生き育てやすい環境づくり、切れ目ない支援を目的としております。今後は、利用申し込みされた方にシステムの操作方法の説明会を開催し、来年4月の本稼働に向け準備を進めてまいります。

保育の質量確保につきましては、現在、市内学校法人が市の補助制度を活用し、市内で2施設目となる認定こども園の整備を進めております。今後は、公立幼稚園、保育園の整備や認定こども園化による定員の確保につきましても検討してまいります。

また、子育て世代への経済的支援につきましては、本年10月から、こども医療費の個人負担を廃止いたしました。加えて、多子世帯への支援として、保育料の軽減に向けた徴収基準等の見直しを検討しているところであります。

#### <輝く高台開発プロジェクト>

輝く高台開発プロジェクトにつきましては、東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側開発の開発方針や土地利用計画等を含めた整備構想及び整備計画の策定に取り組んでおります。

現在、企業の立地動向や用地のニーズを把握するため、様々な業種の企業や開発事業者等と意見交換も実施しております。

今後は、地区や土地所有者の皆様のご意見もいただきながら、市全体に効果を及ぼす、個性あふれ、成長の基盤と魅力的な住環境を備えた地域づくりとなるよう取り組んでまいります。

#### <魅力ある産業雇用プロジェクト>

魅力ある産業雇用プロジェクトにつきましては、現在、国内外観光プロモーション事業に取り組んでおり、観光協会、商工会などの関係者ととも、観光によるまちづくりの観点から地域にある新たな観光資源の発掘や磨き掛けによる観光商品化、受け入れ体制の充実や観光推進組織の設立方法の検討などを進めております。

また、外国企業誘致の魅力分析・発信事業は、中国が必要としている製造品や農産物等の生産施設を中国資本により国内に誘致し、その製品を中国などに輸出するという仕組みづくりを「MIJBC (Made In Japan By China)」と名付け、その可能性を調査、発信、提案するものであります。

現在、中国での現地調査や事業提案、中国人経営者の視察研修の受け入れ、マッチングの場の提供、国内企業のリストアップを行っており、今後、新たな産業や雇用の創出が実現できるよう進めてまいります。

#### <活き活きと健康で活躍プロジェクト>

活き活きと健康で活躍プロジェクトにつきましては、本年度、地頭方地区の絆づくり事業をモデル事業とし、高齢者の活躍できる場づくりに取り組んでおります。

今後、地頭方地区まちづくり計画策定委員会では、交流や地場産品などの販売を行う場の創設を計画の柱に据えて、シニアクラブなど利害関係者による話し合いを進めることにしております。市といたしましても、この計画が実現するようバックアップしてまいります。

9月議会で補正予算として上程させていただきました地方創生先行型交付金の上乗せ交付分である「人がどんどん集まる仕組み構築モデル事業」、「地域における住民主体による元気な高齢者創出モデル事業」、「まきのはら移住定住促進プログラム構築

事業」の3事業につきましても、申請額どおりの交付決定が受けられましたので、総合計画及び総合戦略推進のため、積極的に実施をしております。

また、地方創生につきましても、交付金の積極的な活用はもとより、金融機関とも相互に連携、協力を図るため、静岡銀行や島田信用金庫との協定も検討しております。

次に、総合教育会議についてであります。

市長及び市教育委員会で構成する牧之原市総合教育会議を、本年4月に設置いたしました。

今年度は、市の教育大綱の策定に関する協議が主な内容であり、これまでに2回の会議を開催いたしました。

また、市民の皆様にも大綱の策定に関わっていただくため教育関係団体等をはじめとした各種団体の皆様によるワークショップを実施しており、今後は、いただいた意見を参考に総合教育会議において再度協議し、今年度末までに大綱を策定したいと考えております。

次に、マニフェスト大賞についてであります。

去る11月6日に行われました第10回マニフェスト大賞授賞式におきまして、牧之原市長として首長部門のグランプリを受賞させていただきました。

「対話による協働のまちづくり」という理念とその取り組みにより、津波防災まちづくり計画が第8回マニフェスト大賞市民グランプリを受賞し、また、牧之原市第2次総合計画は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の全国モデルとして評価されました。

これまでの10年間、市民とともに取り組んでまいりましたことがこのような形で評価され、今回の受賞となりましたことは大きな喜びであります。

今回のマニフェスト大賞では、焼津市・島田市・掛川市と一緒にっております研究会と牧之原市の茶々若会も優秀賞を受賞いたしました。県内外の市町で世代を超えて、「対話によるまちづくり」が広がりを見せておりますので、今後も一層の推進を図ってまいります。

最後に、2020年東京オリンピックにおける「サーフィン」公式会場、事前合宿地招致についてであります。

市では全国規模のサーフィン大会が幾度となく開催されていることや、追加種目として提案されることを視野に、以前から事前合宿地としてエントリーしてまいりました。こうした状況を踏まえ、サーフィン関係者を始め観光協会や商工会、金融機関などとの情報交換会を開催し、その中で参加者から「開催地としてもエントリーを！」

との意見があり、牧之原市東京五輪「サーフィン」公式会場・事前合宿地招致準備委員会を発足させたところであります。

安倍晋三首相も2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催で生み出される活力を「地方創生」に結び付けていく考えを強調されており、まさしく官民一体となって取り組んでいかなければ、招致は成功いたしません。この取り組みこそが活力であり、地方創生に繋がっていくものと考えております。

すでに、サーフィンの開催地といたしましては、千葉県、神奈川県、宮崎県など、また県内では下田市が立候補しており、いずれもサーフィンが盛んな地域であります。牧之原市には、富士山静岡空港、東名高速道路相良牧之原インターチェンジなど、アクセスに優位な条件も多く、また新幹線新駅が現実となれば更に優位となると考えております。

今回の立候補は、東京ではなく、ここ静岡県牧之原市がオリンピック開催地となり、また正式種目となって第1回目の開催地として歴史に刻まれ、後世にオリンピックレガシー（遺産）として残せる大きなチャンスであります。皆様と共に招致に向け、全力で取り組んでまいります。

合併して10年という節目を通過いたしました。

牧之原市の歌 ～うみ・そら・みどり牧之原～ の一節に「ふれあう人の 絆はひとつ 光があふれる 愛の町」とありますとおり、市民の皆様と将来都市像の実現に向け努力してまいります。

以上、所信の一端について申し上げ、行政報告といたします。

平成27年12月2日

牧之原市長 西原 茂樹